

臺灣・南支・南洋

特273

504

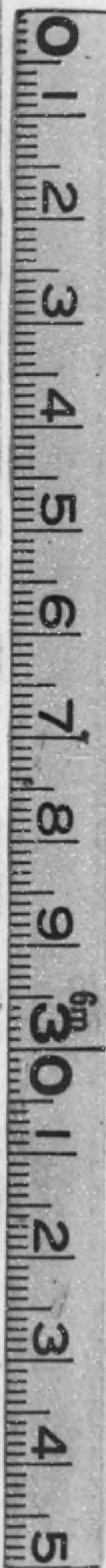
# パンフレット

(5)

那支印度領佛及南洋  
寫真畫報

1926

拓殖通信社

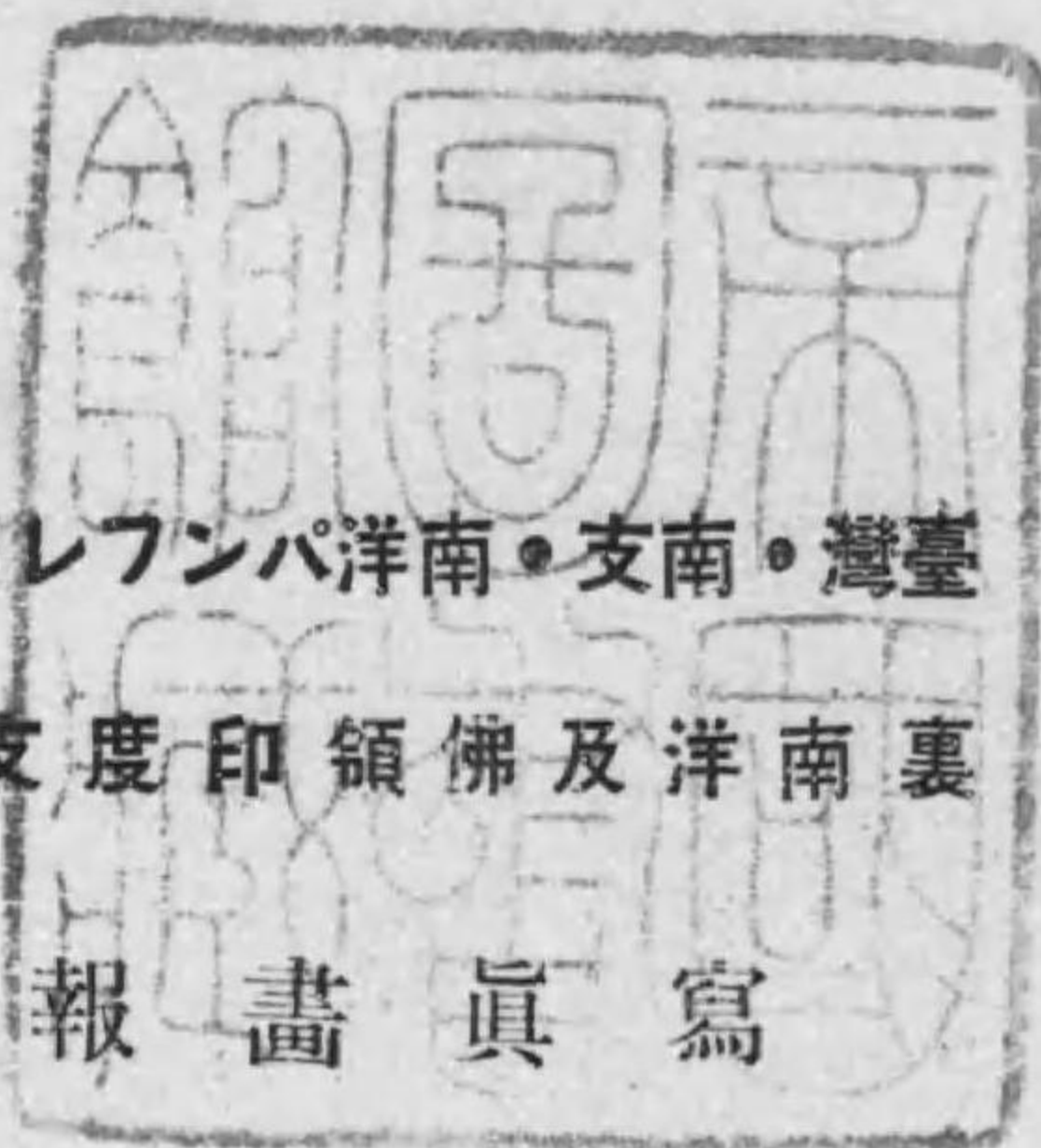


# 始

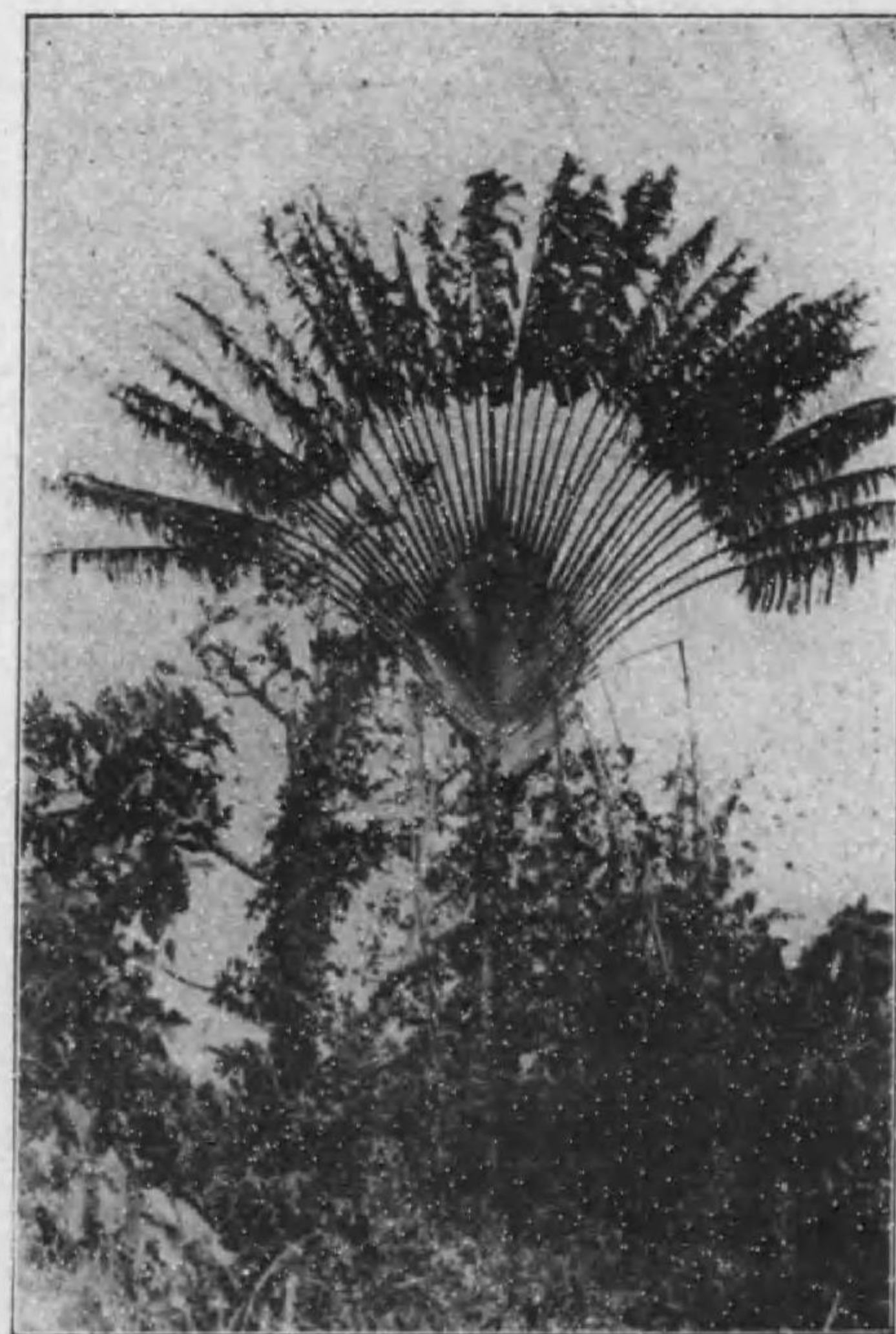




特 273  
504



トツレフンパ洋南・支南・灣臺  
那支度印領佛及洋南裏  
報 畫 眞 寫



(蕉芭扇)

版社信通殖拓  
15. 3. 13  
内交





主 張

今日臺灣に於て民論は行はれて居ない。それは新附の臺灣籍民に對する遠慮である。眞に止むを得ない事情と云へば云へる。それにしても言論界の現状は餘り色々の束縛に依つて萎縮するとも伸びる事を知らない。是れ正に時代逆行である。

然るが故に母國に於ては黎明期にある臺灣の真相を知る事が出来ない。まして更に遠隔の南支南洋の事情に至つては全くお先き眞つ闇である。

偶々臺灣宣傳とか、南洋紹介とか云ふ名目下下に試みらるゝものがあつても多くは資料の杜撰なるものか、然らざれば俗悪なる興業化の範圍を出ない。

臺灣統治の「先覺者は」殖民地に鋏を入れるよりも母國の要路に立つ人々の頭を開拓する方が先決問題であると「喝破した。

本パンフレットは、常に局外に在て偏せず傾かず、臺灣を中心とせる南支南洋の實情に對し、嚴正なる研究、忠實なる紹介を試みんとするものである。

裏南洋諸島



内 容

- 1 コブラ製造  
ポナへの常盤瀧
- 2 南洋廳
- 3 南洋廳長官々舎  
南洋興發製糖所  
原鑛貯造所
- 4 チヤモロ人  
集會所

裏南洋を骨董扱ひするを避け、國利の爲め徐に  
經濟的基礎を据へる必要がある。陸上の面積小  
なりとするも、海上海底の面積に至ては廣大で  
且無盡である。海洋國としての裏南洋の價値は  
之を決す可く相當の時間を要する。更に陸上の  
利用に於ても今猶然るを覺ゆるのである。  
先づ眼より之を紹介し宣傳して置く。



コブラ製造

椰子實を割り小刀を以て白き肉質を採る。寫眞中  
眞白きは皆此のコブラであつて、油分は石鹼原料  
として上乘のものである。



ポナへの常盤瀧

裏南洋を小なりと輕視する勿れ。斯くの如き水量  
豊富の瀧あり。





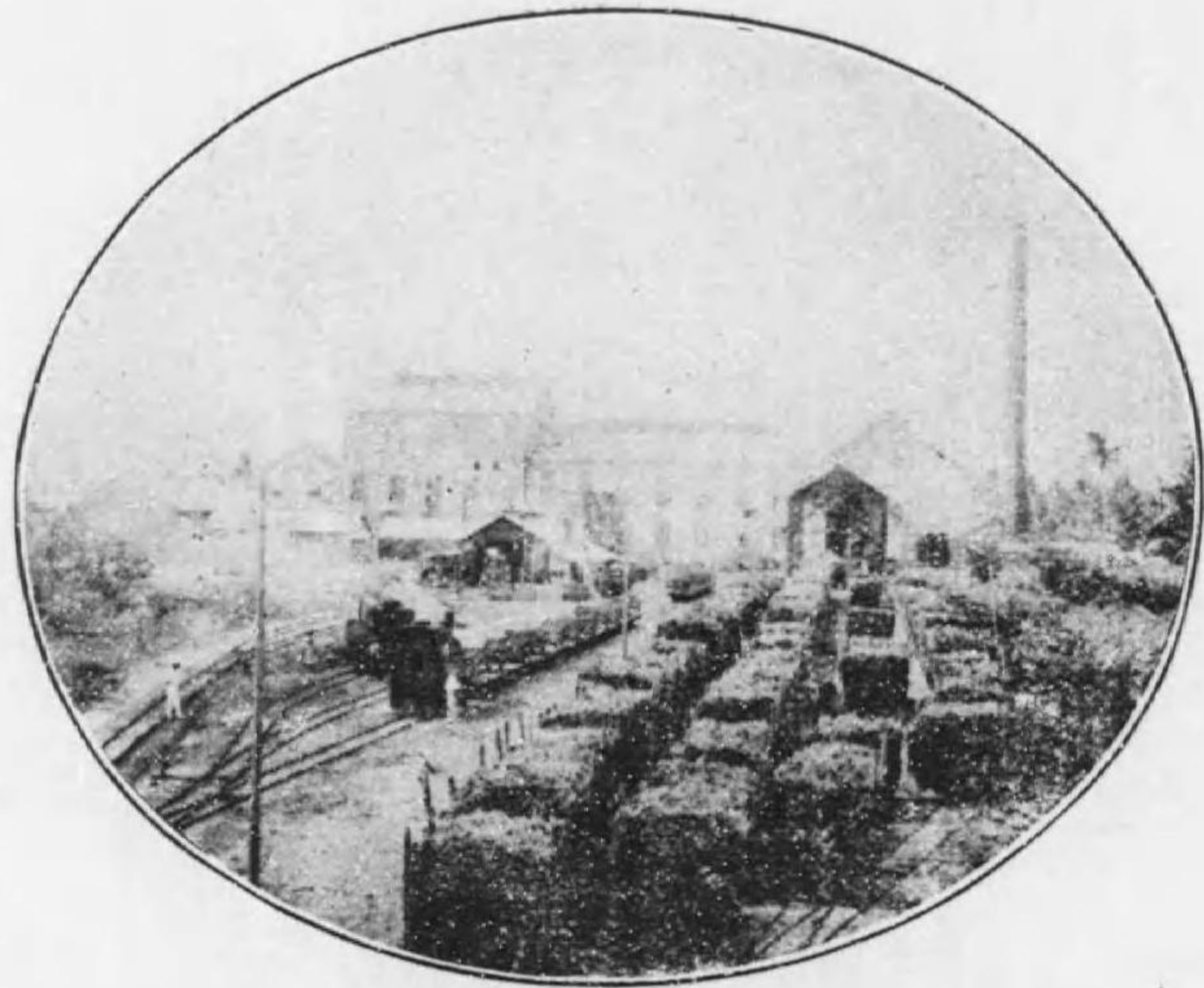
南 洋 廳

。りあに島ルーココ島諸カラバ

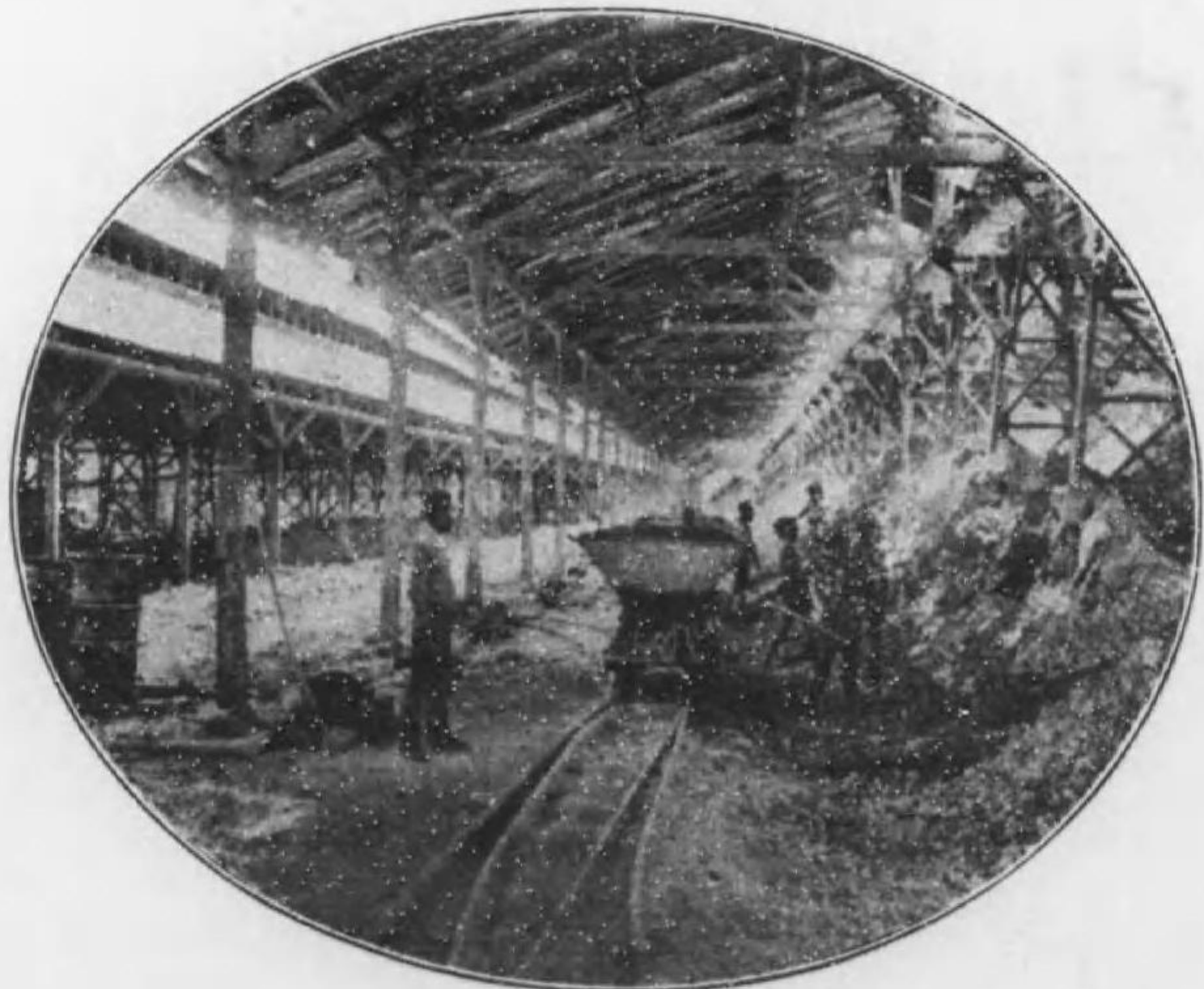


南 洋 廳 長 官 官 舎





の唯一洋南裏るけ於に(發興洋南)島ンバイサ  
るあで場工式新てしに社會滲製



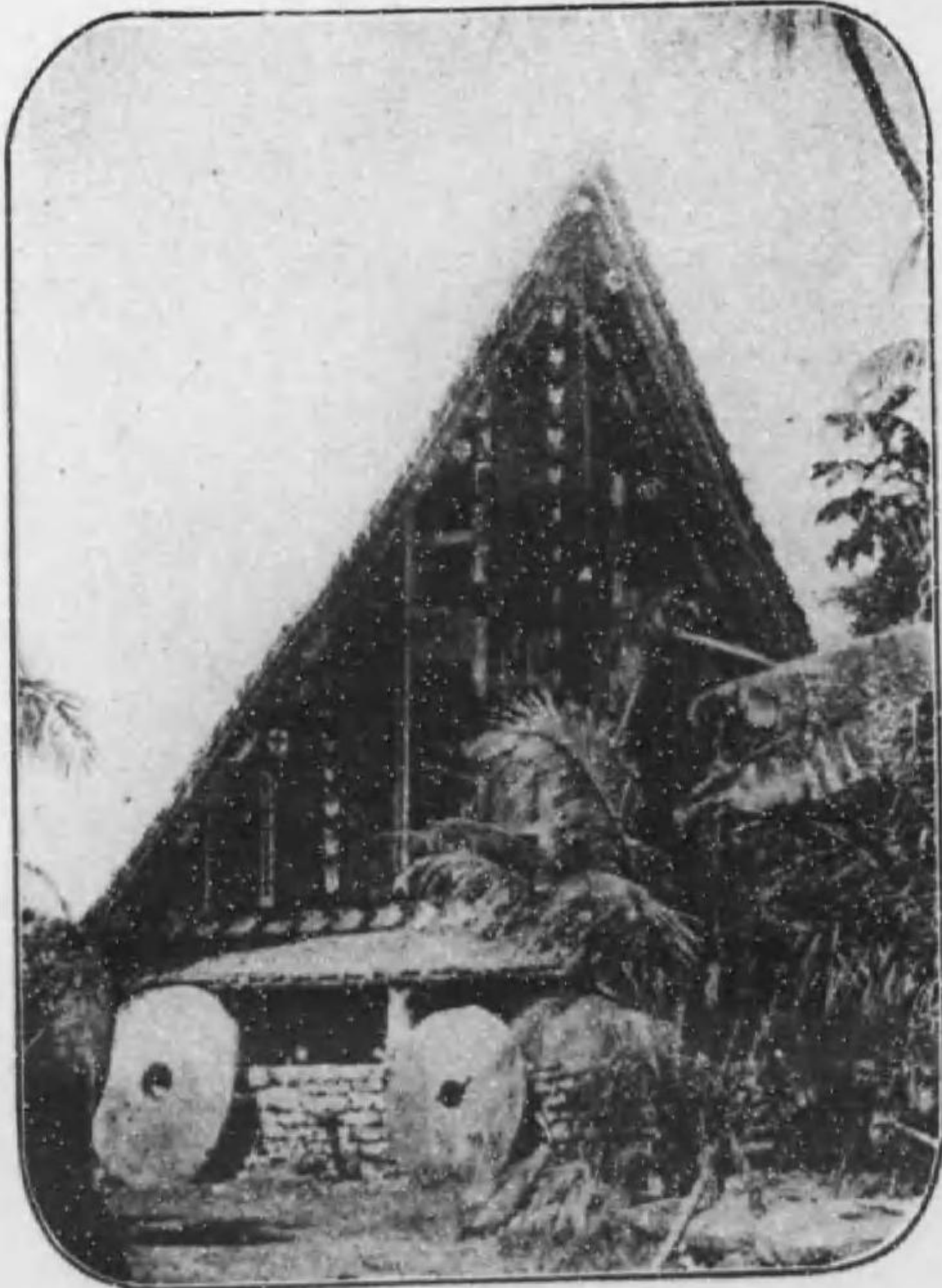
庫造貯礦原所礦探應洋南



日本の漂流者の血を混じたる可しと推定する識者がある程、背抵く勇敢である。更に四ツ目垣の角結び或は農具等日本の夫れと略同一である。



人口モヤチの嶋ンパイサ



ヤツプ嶋民集會所  
 パラオ島のアパイが種々の彫刻に依つて裝飾せる如くヤツプ島の集會所は椰子の纖維製の繩にて裝飾をする大体の趣きは臺灣生蕃に類似する。寫真中二つの圓形のは彼等の通貨。



佛  
領  
印  
度  
支  
那



安南美人



風俗習慣支那に近く、起居動差日本に遠からず、よく働き女天下である。中以上の者は色白が多い。熱帯地なれど黒勝ちの服を着る。興味多き蒲葵葉製の笠を見よ。

五

内容

1 安南美人

2 ベタロンの奇勝

雲南鐵道

鴻基

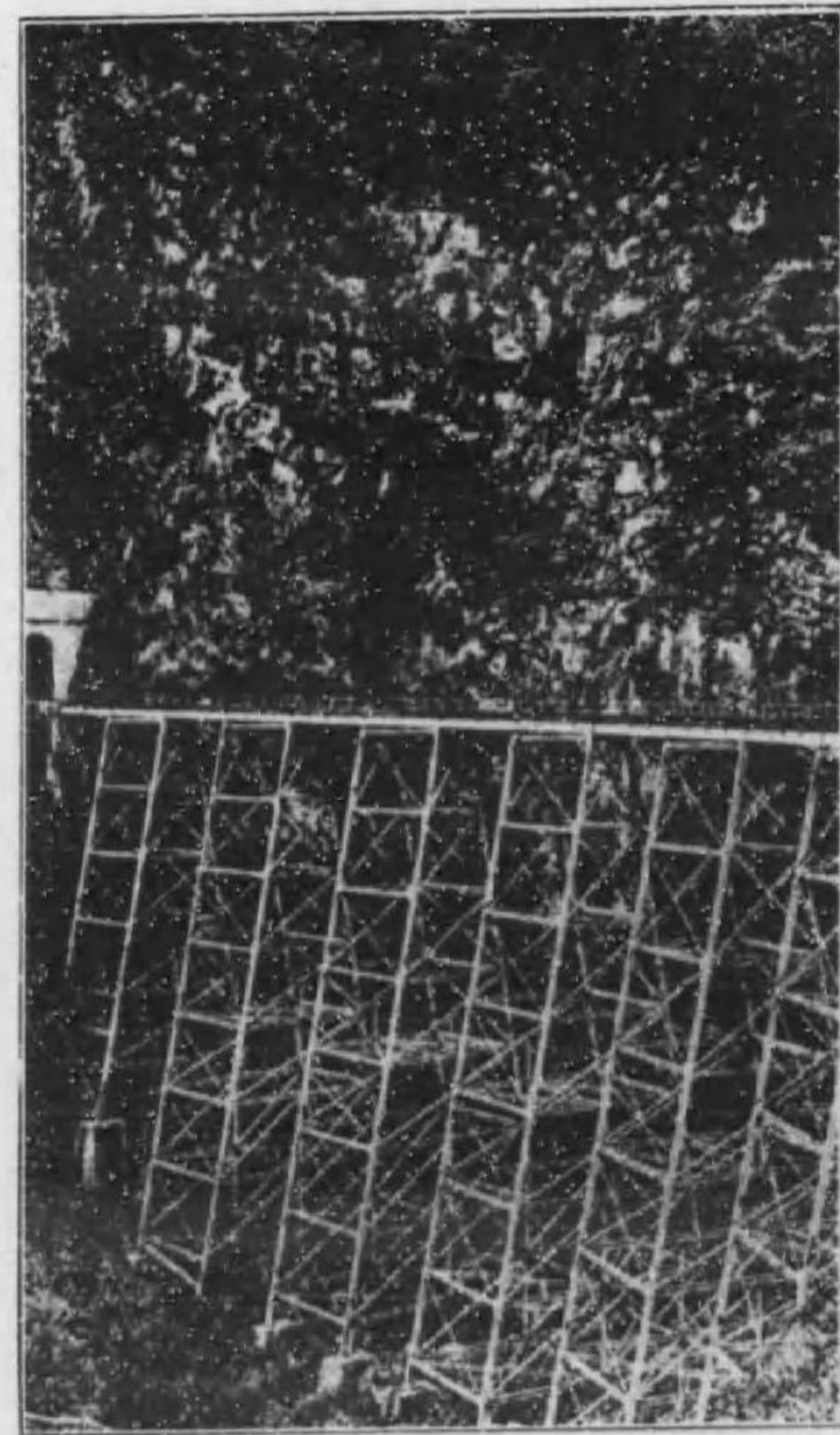
3 首府河内

南方に沃土あり。佛領印度支那と爲す。同地は消極的政策に依る施設の爲め産業振はず。佛人は徒に寶庫を抱いて悶死せんとする許りである。近時彼我接近の端啓かれんとする時に、記者の該地に赴きて得たる事情を寫眞に依て紹介する。必ずしも徒事ではないと信ずるのである。パンフレットの號を追ふて該地の有力なる資料を紹介するであらう。





ベータロンの奇勝  
 南北四十哩東京湾口に横る天下の奇  
 勝其の島數三千四百、全部石灰質に  
 て變化極りなき景観である。



雲南鐵道の奇橋  
 佛國の投資になれる同鐵道は難工事を排して雲南省の  
 高地に到る。寫眞は國境河口附近である





(イノハ) 内河府首

漠寂に割の大模規し然。す爲な街市るな洒瀟の式國佛  
 。る漲分氣樂享の店理料の式里巴處る到。るあが惑の



七

(イゲンホ) 基 鴻

の年ヶー。るあで港出搬礦炭煙無の堀天露るな名有  
 入輸てしと料原炭煉はに邦本。す稱と噸萬百量堀採  
 。るあ、つれさ



既刊目次

- |              |                           |                       |                        |           |
|--------------|---------------------------|-----------------------|------------------------|-----------|
| 5            | 4                         | 3                     | 2                      | 1         |
| 裏南洋、佛領印度支那畫報 | 行詰れる南洋協會<br>發賣禁止の「台灣訪問の記」 | 富豪陳嘉庚の教育事業<br>臺灣籍民の惡化 | 伊澤總督を廻ぐる惑星<br>拓殖會社計劃問題 | 臺灣文化運動の現況 |
|              | 二月                        |                       | 一月                     |           |



パンフレット刊行規定

目的・體裁・内容

回数・購讀料

本パンフレット刊行の目的は臺灣を中心として南支、南洋の事情の嚴正なる研究、忠實なる紹介を目的とするものであります。激忙なる識者を目標とする爲めに本文は克明にして而かも簡潔なる要領とし携帯並に保存の便利上瀟洒なる四六版型としてあります。本パンフレットは豊富なる資料に依り大要左記の範圍に於て重要な一題或は數問づゝを掲出して行きます。政治、經濟、社會、思想、文藝、史料、統計、寫眞、新古要書紹介、猶會社銀行等の經營の真相を調査し臨時刊行を試みます。發行回数は毎月參回以内とします。會費は特別會費、普通會費の二種に分ち前者は銀行會社等、後者は個人、學校、公共團體の差を以てします。料金は左の通り、但し前金の事

特別會費	壹箇月	參圓
普通會費	同	壹圓

拓殖通信社事業の概要

通信部 南方事情に關する一切の通信  
 出版部 南方事情に關する各種の出版  
 調査部 南方發展に資す可き諸般の調査  
 宣傳部 南方及び母國双方の事情宣傳  
 紹介部 南方及び母國双方の事業又は物産其他の紹介  
 興信部 南方及び母國双方の會社商店並に個人、留學生等の信用調査

拓殖通信社

本社 東京市麻布區筈町五

支社

臺北市大正町二ノ十八  
 臺南洲嘉義西門外三二二  
 南支那厦門新馬路門牌六

社長 宮川次郎  
 主幹 安藤盛



大正十五年二月十五日印刷  
大正十五年二月十六日發行  
月參回發行 (非賣品)

臺灣南洋  
トツレアンパ

編輯兼  
發行人  
安藤盛

東京市麻布區筭町五番地  
東京市日本橋區本材木町一丁目廿三番地  
印刷人  
金山次郎

東京市麻布區筭町五番地  
發行所  
拓殖通信社  
振替口座東京 七四四七四番

拓殖通信社支社

臺北市大正町二ノ一八  
臺南州嘉義西門外三一八  
南支那福建省廈門新馬路門牌一八



終

